

クリの病害虫-2 (病害虫講座—47)
樹上のイガを狙ってお先に

木村 裕

樹上でまだ青いイガに包まれた実をねらっていろいろの害虫がやってきて、私たちが拾い集める前に食害を始めます。

収穫した果実は乾燥するとだめになるので、貯蔵保管は水に漬けるか、湿った砂に埋めます。

【ネスジキノカワガ】

6~7月頃(かわいらしいイガが大きくなり始めた頃)、イガの上に黒褐色の糞の塊が見つかることがあります。この蛾の幼虫がイガの中に潜りこんで内部を食って、糞を外に排出したものです。まだ中身も充実しておらず美味しくないとと思うのですが、発生数も少ないので実害はないでしょう。



【モモノゴマダラノメイガ】

秋、クリが熟してイガの落下が始まって果実を拾い集めると、果実に丸い孔があき、中身がすでに食い荒らされています。大きな実を見つけたと思って先客がすでに食べたあとです。

イガをよく見ると、口を開いたイガの中に果



実が2~3個詰まっていますが、その果実の隙間に褐色~黒褐色の糞が糸で綴られておればすでに先客が入り込んでいます。

淡紅色で黒い斑点のあるイモムシが住み着いています。穴のあいた果実は食用になりませんので被害甚大です。

【クリミガ】

果実の収穫時にはまったく被害症状は見えません。しかし収穫して2~3日置いておくと、果実の表面が淡褐色の粉まみれになっていることがあります。よく見てください。果実の褐色皮の部分と下の座の部分の境に針で突いたような孔があり、そこから吹き出ています。収穫時にはまだ虫は小さくて目立たないので虫ごと食べている方も少なくありません。



【クリシギゾウムシ】

クヌギやコナラなどのドングリから白いウジが這いだしているのを見たことがあるかと思います。この虫と同じ仲間の虫が栗の実にも入っています。かなり高い頻度で。収穫直後では虫は小さいので気がつかず、そのまま皆さんの胃袋に収まっていることでしょう。害はありませんのでご心配なく。

